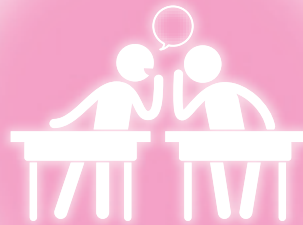


# コミュニケーション活動を 活かした授業づくり

— 「話すこと、聞くこと」の指導にどう取り組めばよいか —

協同学習

アクティブ  
ラーニング



ユニバーサル  
デザイン

# コミュニケーション活動を活かした授業づくり

—「話すこと、聞くこと」の指導にどう取り組めばよいか—

## 目 次

1	はじめに	・・・	1
2	なぜ、「話すこと・聞くこと」なのか	・・・	4
3	国語科における実践例	・・・	6
4	総合的な学習の時間・道徳における実践例 (国語科との合科を例として)	・・・	16
5	授業に使えるツール (ユニバーサルデザイン, アクティブ・ラーニング用)	・・・	34
6	後記	・・・	50
	・アクティブ・ラーニングへの転換に向けて		
	・評価はどうあるべきか		



# 1 はじめに

昨今、「子どものコミュニケーション能力が低下している」として、マスメディア等では、盛んに取り上げられている。しかし、現代の子どもたちは、SNSで、または仲の良い友達（「イツメン」〈いつものメンバーの略〉と呼ばれる）の中で、文字や会話によるコミュニケーション活動を活発に行っている。一方で、「ぼっち」「ヨッ友」「スクールカースト」などの言葉に代表されるように、友人同士の関係は希薄であるというのが現実であろう。つまり、子ども同士の交友範囲は、インターネット等で世界とつながっていると考えれば、広いとも言えるが、親しい友人関係に限ると、狭いとも言える。結果、クラス替えがあると「イツメン」は（LINEも）解散，ということも珍しくなく，人間関係に課題があり，本質的なコミュニケーションとは言い難いといえよう。

日本経済団体連合会の『新卒採用（2013年4月入社対象）に関するアンケート調査結果の概要』（2014年1月9日）によると，採用選考時に重視する要素は，10年連続で「コミュニケーション能力」が第1位であった。この調査では，選考にあたって重視した点を，25項目から5つ回答するという形をとり，その結果，「コミュニケーション能力」が10年連続で第1位となり，「主体性」・「チャレンジ精神」・「協調性」・「誠実性」と続いたのである。上位5項目においては，変化はなかったが，この結果をどう考えればいいのか。

近年，「コミュニケーション能力」と「主体性」の比重は，ますます高まっている。採用選考時に「コミュニケーション能力」を重視する企業は，86.6%に上っており，「コミュニケーション」は，社会に出る前の学校教育において，極めて重要なものであるといえよう。

こうした中，「アクティブ・ラーニング」が，注目を集めている。中央教育審議会（2012年8月28日）の報告書では，大学教育において，「生涯にわたって学び続ける力，主体的に考える力を持った人材は，学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から，教員と学生が意思疎通を図りつつ，一緒になって切磋琢磨し，相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り，学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」と指摘している。（『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて―生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ（答申）』から）

ここでいう「アクティブ・ラーニング」とは、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称であり、学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ることである。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等も含まれるが、教室でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も、有効なアクティブ・ラーニングの方法なのである。

この流れは、大学教育の変革のみならず、初等中等教育にも大きな影響を与えている。平成26年11月20日に、文部科学大臣から中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」が諮られた。

そこでは、「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子供たちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。また、成熟社会を迎えた我が国が、個人と社会の豊かさを追求していくためには、一人一人の多様性を原動力とし、新たな価値を生み出していくことが必要となります。我が国の将来を担う子供たちには、こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付けることが求められます。そのためには、教育の在り方も一層の進化を遂げなければなりません。個々人の潜在的な力を最大限に引き出すことにより、一人一人が互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図り、幸福な人生を送れるようにするとともに、より良い社会を築いていくことができるよう、初等中等教育における教育課程についても新たな在り方を構築していくことが必要です。（原文抜粋）」とした。また、「そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。こうした学習・指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、子供たちの学習意欲を高める上でも効果的であることが、これまでの実践の成果から指摘されています。（原文抜粋）」と明記している。

そのため諮問においては、「育成すべき資質・能力を確実に育むための学習・指導方法はどうか。その際特に、現行学習指導要領で示されている言語活

動や探究的な学習活動，社会とのつながりをより意識した体験的な活動等の成果や，ICT を活用した指導の現状等を踏まえつつ，今後のアクティブ・ラーニングの具体的な在り方についてどのように考えるか。また，そうした学びを充実させていくため，学習指導要領等において学習・指導方法をどのように教育内容と関連付けて示していくべきか。」と問いかけており，「アクティブ・ラーニングなどの新たな学習指導方法や，このような新しい学びに対応した教材や評価手法の今後の在り方についてどのように考えるか。また，そうした教材や評価手法の更なる開発や普及を図るために，どのような支援が必要か。」という点を特に取り上げ，中央教育審議会に諮問している。

ここで考えなければならないのは，こうした指摘は，アクティブ・ラーニング的な授業形態の変革を意図しているのか，アクティブ的な学びを保証するための総括的な対応を企図しているのかによって異なり，その方向を見誤ってはいけないと思われる。いずれにしても，アクティブ・ラーニングが実施できる環境整備を急ぐべきであろう。

本冊子では，そうした学びの根底となる『話す・聞く』という基本的な能力の育成を，国語科を切り口に，内外に提示することとした。また，どの教科でも使える資料（授業に使えるユニバーサルデザイン等）を集録しており，授業で活用できるように，印刷版の大きさをその一部を紹介している。是非，参考にさせていただきたい。

平成 27 年 3 月

鳴門教育大学 教職大学院

柏原知子（院生：香川県中学校教諭）

阪根健二（教授：指導教官）

#### 【参考引用文献】

- ・ 『新卒採用（2013 年 4 月入社対象）に関するアンケート調査結果の概要』，平成 26 年，一般社団法人 日本経済団体連合会，
- ・ 『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて—生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ（答申）』，平成 24 年 8 月，中央教育審議会
- ・ 『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）』，平成 26 年 11 月，文部科学大臣

## 2 なぜ、「話すこと・聞くこと」なのか

### 1. 国語科における問題意識

『学習指導要領』の「国語」では、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」とあるが、学校現場では「C 読むこと」に多くの時間が費やされている傾向がある。『朝倉国語教育講座 2 読むことの教育』「まえがき」（小田・浜本・松山, 2006）では、「現行では、周知のように、〈A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと〉とあるように、表現活動を先行させる示し方になっている。これは、国語科授業がなお戦前の傾向を受け継ぎ、依然として〈読むこと〉中心におこなわれている状況に対処すべく、表現能力の育成の重要性を強調する意図を示すものである。」としている。つまり、「話すこと・聞くこと」指導の強化が、現在の学校教育に求められていると言える。

### 2 学校現場の実際

学校現場では、友人との付き合い方やコミュニケーションの取り方が苦手な生徒同士が、もめ事を起こすということをよく見かける。相手の意図が読みきれないからである。

また近年では、発達障がいの生徒への理解は進んできたものの、境界線上の生徒を含めた有効な手立てを考えなくてはいけない。あわせて、外国籍やルーツを持つ生徒が増加しており、会話に困難を抱える生徒も多く見られる。こうした児童生徒は、周囲とのコミュニケーションがうまく取れず、不登校や問題行動につながることも考えられる。

以上のような生徒に限らず、様々な理由で学習面や人間関係上の「困り感」を抱える、いわゆる「支援を要する生徒」も多く、その対応として、授業の中で人間関係を構築しつつ、「分かる」授業づくりを工夫することは、極めて重要であろう。そうした配慮が、他の生徒にとっての「分かる」ことや、学級の支持的な風土づくりにつながっていくのではないだろうか。

### 3 「話す・聞く」に関する先行研究・先行事例

『朝倉国語教育講座 3 話し言葉の教育』の「まえがき」（白石・山元, 2004）では、「戦後第二の教育改革といわれる平成の学習指導要領改訂以来、教育界は、激変する時代の様相と子どもの変化に対応した新たな教育のあり方を求めて変化し続けてきた。国語教育界も例外ではなく、読解を中心とした文学言語の学習に重点を置いたものから、人と人とのコミュニケーションの仲立ちを担う言語の役割に注目した、「伝え合う」活動重視の学習への転換が模索されている。」とある。また、山元(2004)は、聞こうとする意欲や話し合いを楽しむといった「土

台を築く」ことの大切さについても提唱している。

#### 4 コミュニケーション能力の育成に関する先行研究・先行事例

文部科学省「コミュニケーション教育推進会議」では、『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～』（平成23年8月）を答申した。ここでは、「多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要であり、コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること、②他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること、③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある」としている。

以上のことから、「話す・聞く」そして「伝え合う力」の能力育成は、喫緊の課題であり、コミュニケーションスキルを向上させるための授業改善を行うことが求められている。

コミュニケーション能力の向上への取り組みは、国語科のみならず、他の教科や道徳・学活・総合などにも活かされ、「協同的な学び」の基盤になることが期待される。また、授業の中に「なかまづくり」・「学級づくり」・「学習規律」の要素を盛り込み、傾聴や対話、討論などを通して周囲との相互理解を深めることや、友人関係を構築することで、集団の学習意欲が向上し、学び合い支え合う支持的な風土のある学級組織につながることを期待されるものとする。

本冊子は、こうした考えから、鳴門教育大学教職大学院において、開発・実践した授業資料や教材を紹介するものである。

#### 【参考引用文献】

- ・ 倉澤栄吉・野地潤家 監修(2006)『朝倉国語教育講座 2 読むことの教育』朝倉書店
- ・ 文部科学省のコミュニケーション教育推進会議(審議経過報告)：『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う・創る・表現する」ワークショップへの取組～』（平成23年8月）

# 国語科における実践例





# 1 国語科で実践した授業概要

ここでは、中学校1年生の国語科の授業を紹介する。これは、高松市立協和中学校での実践（実践者：柏原知子教諭）における指導略案とワークシートの一部（抜粋）である。なお、教科書は、光村図書「国語1」であり、1年で最初に学ぶ「話すこと・聞くこと」の単元として、「言葉に出会うために 声を届ける」という主題で授業を行った。

この「言葉に出会うために 声を届ける」の授業は、1年生のスタートにふさわしく、しっかり声を出し、分かりやすく話すということに重点が置かれている。教科書では、「声を届ける」の前のページに、「ねがいごと」・「おれはかまきり」の詩が載っており、これを音読・朗読させる際に、体を使って楽しみながら声を出すということを特に意識させた。そのため、起立してペアでお互いに詩を読み合い、聴き合ったペアから着席させるという形式をとった。

また、次の時間では、「声を届ける」の復習と「情報を正確に聞き取ろう」の授業をセットで行い、聞くという視点を特に重視した。なお、教材として、NHK for School『お伝（つた）と伝（でん）じろう』を活用した。同番組は、平成25年4月から、NHK（Eテレ）で放送中のコミュニケーションスキルを養う番組（平成26年度は、平成25年度の再放送）であり、全20回の中から、教科書の教材の内容に合う番組をピックアップして、授業の中で効果的に使った。視聴覚教材とのリンクは、文字中心の国語科においては、逆に有効なものであった。

なお、授業の導入には、絵本の読み聞かせを取り入れた。これは、授業規律の確保に大きな効果がみられた。

名前	評価	コメント
柏原さん	○	聞の取り方が良かった。語速が少し遅い。

「ねがいごと」  
ねがひごとをうたへば  
おれはかまきり  
おれはかまきり  
おれはかまきり

「おれはかまきり」  
おれはかまきり  
おれはかまきり  
おれはかまきり

## 2 国語科「声を届ける」・「情報を正確に聞き取ろう」の資料

### 国語科授業プラン

平成〇年〇月〇日（〇）〇校時  
授業者


- 1 学級 1年〇組 〇名 [1年〇組 教室]
- 2 テーマ 「声を届ける【音読・発表】」  
(教科書18・19ページ)
- 3 ねらい 声を届けるためにはどのようなことを意識しなければならないかを理解する。

#### 4 おおまかな流れ


	学習内容・活動	学習形態
0	絵本の読み聞かせをする。	一斉
1	授業の流れを確認する。	一斉
2	<b>共有の課題</b> 教科書16・17Pの「ねがいごと」と「おれはかまきり」を音読する。	ペア
3	<b>課題の追求①</b> 声を届けるときの留意点を考える。	グループ
4	「声だけで表現しよう」（『お伝と伝じろう』）を視聴して、どんな声で、どんなことに気をつけて読めば相手に何が伝わるのかを考える。（メモを取る。）	一斉 (机は班の形)
5	<b>課題の追求②</b> 「ねがいごと」または「おれはかまきり」の朗読を、グループ内で発表する。 (相互評価)	グループ
6	<b>まとめ等</b> ワークシートに、まとめと授業の感想を記入する。	一斉

# 声を届ける【音読・発表】

目標：声を届けるためには声の出し方を意識しなければならぬことを理解しよう


-  **くア** 教科書十八・十九ページの「ねがひ」の「ねがひねがひ」を声に出して読む。

-  **グループ** **課題** 「ねがひねがひ」の音読の練習（ねがひねがひ）を声に出して読む。


-  **一人** 「ねがひねがひ」の音読（ねがひねがひ）を声に出して読む。また、ねがひねがひの音読の練習（ねがひねがひ）を声に出して読む。

ねがひねがひ



-  **グループ** **課題** 「ねがひねがひ」または「ねがひねがひ」の音読をグループで行って発表しよう。（音読…うたかた①・うたかた②・うたかた③）

名前	評価	ねがひねがひ…（ねがひねがひの音読）
① 相原さん	○	音読のねがひねがひが、音読のねがひねがひに近かった。
自己評価		

-  **個人** ねがひねがひの音読の感想

# 国語科授業プラン

平成〇年〇月〇日（〇）〇校時  
授業者

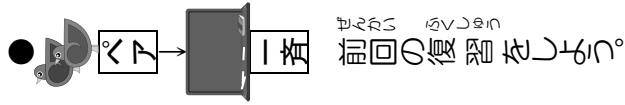
- 1 学級 1年〇組 〇名 [1年〇組 教室]
- 2 テーマ 「声を届ける【音読・発表】」（教科書18・19P）  
「情報を正確に聞き取ろう」（教科書24ページ）
- 3 ねらい ・声を届けるためにはどのようなことを意識しなければならないかを理解する。  
・情報を正確に聞き取り、要点を押さえてメモに取る。

## 4 おおまかな流れ

	学習内容・活動	学習形態
0	絵本の読み聞かせをする。	一斉
1	授業の流れを確認する。	一斉
2	<b>共有の課題</b> 前回の復習をする。 ・声を届けるときの留意点 ・よい朗読をするための「体・技・心」	ペア ↓ 一斉
3	「先生を知る3択クイズ」に取り組む。	ペア
4	<b>課題の追求①</b> ・「担任の先生の話」（『話聞CD』）を聴き、聞き取りメモを取る。 ・聞き取った内容を確認め合う。（相互評価）	一斉 ↓ グループ
5	<b>課題の追求②</b> 教科書24Pの「聞き取りメモの例」と、自分たちの聞き取りメモを比べて、気づいた点を出し合う。	グループ
6	<b>まとめ等</b> ワークシートに、まとめと授業の感想を記入する。	一斉

# 声を届ける【音読・発表】ワークシート No.②

目標：声を届けるためには声のちがいを意識しなければならぬことを理解しよう



## ★声を届けるためのポイント（振をいける）

(教科書十八・十九ページ参照)

1 [ ] ぶ ち [ ] ちんじ

2 [ ] ・ [ ] に返さじせん

3 [ ] の取り方

4 [ ] の高さ  
・ 音程の母に返る音の高低… [ ] ぶん

・ 文全体の音の高低… [ ] ぶん

5 発音

## ★よい朗読をするための「体」「技」「心」

(「根だけ」表現しよう)

・「体」 [ ] から振を出すために

腹式呼吸 ① [ ] を全部出す

② [ ] 息を吸い込む

③ [ ] の [ ] をためる

・「技」 ・ (句読点)

・「心」 登場人物の [ ] を想像して読む

だが [ ] ぶん ぶん女風に感じながら [ ] ぶん

# 情報を正確に聞き取る

**目標**：情報を正確に聞き取り、要点を押さえてメモを取る

● **ペア** 「柏原先生を知る三枚のメモ」に聞き取る。

● **一斉** 「担任の先生の話」(『話聞の口』) を聴き、聞き取りメモを取る。

聞き取りメモ

(自分なりにまとめる)

● **グループ** **課題①** 聞き取った内容を確かめ合おう。

名前	工夫している点…(文書し)	評価
◎ 柏原さん	絵をつけている。大切な情報はくいの色を塗っている。	◎
自己評価		

(評価…よし◎・まあ○・ふんふん△)

● **グループ** **課題②** 教科書二十四ページの「聞き取りメモの例」を自分たちの聞き取りメモと比べて、気づいた点を挙げておこう。

● **個人** まよめ・授業の感想

# 国語科授業プラン

平成〇年〇月〇日（〇）〇校時

授業者

- 1 学級 1年〇組 〇名 [1年〇組 教室]
- 2 テーマ 「情報を正確に聞き取ろう」②（教科書24ページ）
- 3 ねらい 情報を正確に聞き取り、要点を押さえてメモを取る。

## 4 おおまかな流れ

	学習内容・活動	学習形態
0	絵本の読み聞かせをする。	一斉
1	授業の流れを確認する。	一斉
2	<b>共有の課題</b> 前回の復習をする。 ・ワークシートNo.①を見直す。 ・【上達のポイント】聞き取りメモを取る ときは	ペア ↓ 一斉
3	<b>課題の追求①</b> 「放送委員長からの連絡」（『話聞CD』） を聴き、聞き取りメモを取る。	一斉
4	<b>課題の追求②</b> 情報を正確に聞き取り、ポイントを意識して 要点を押さえたメモが取れたか、お互い に確認する。（相互評価）	グループ
5	教科書24ページを音読し、太字などに線を 引く。	一斉
6	<b>まとめ等</b> ワークシートに、まとめと授業の感想を記 入する。	一斉



# 情報を正確に聞き取るシート No.2

目標：情報を正確に聞き取り、要点を押さえてメモに取る

🎧 → 📖 **一斉** 前の復習をしよう。(教科書二十四ページ参照)

**上達のポイント**

聞き取りメモを取るときは

- ・ [ ] ・ [ ] ・ [ ] などの [ ] を正確に聞き取る。
- ・ [ ] ( [ ] ) を書き留める。
- ・ [ ] じつは、 [ ] を使ったことがない。
- ・ [ ] に線を引いたり、 [ ] を囲んだりする。

📖 **一斉** **課題①** 【上達のポイント】を認識しながら、「放送番組表からの連絡」(話し聞いD)を聴き、聞き取りメモを取ろう。

**聞き取りメモ**

(自分なりに工夫する)

👥 **グループ** **課題②** 情報を正確に聞き取り、ポイントを認識して要点を押さえてメモを取ったが、お互いに確認しよう。

★シートを班で回して、評価コメントを書きつけてほしい。(評価…◎・○・△)

名前	評価	コメント…(ほめることやアドバイスを)
◎ 相原 あり	△	日時を書き込んでいるが、無名で書き込んでいる。細い。
自己評価		

📝 **個人** **まとめ**・授業の感想

感想記入欄

# 総合的な学習の時間 道徳における実践例

(国語科との合科を例として)



## 1 総合的な学習の時間（防災教育）での実践

ディスカッションなどの『アクティブ・ラーニング』において、導入では、構成的グループエンカウンターの「二者択一」などを取り入れ、教室内で話しやすい環境づくりをめざした。この手法は、効果的であった。

この授業は、国語科の「話題をとらえて話し合おう バズセッションをする」という単元を、「防災」を話題として合科的な扱ったものである。ここでは、発災時さながらに、「学校で、昼休みに火災が発生。みんなで避難することに。しかし、仲のいい友だちが見当たりません。」という場面を設定し、「友だちをさがす」か「まず避難する」かのどちらかを選択させ、理由を具体的に考えさせた。

生徒は、これまでに何回も避難訓練を経験しているので、こういう場合が実際にあったらどう行動するかを考えさせることは有意義なことであろう。授業では、ペアで話し合いをさせたが、実際には「まず避難する」の方が多かった。理由を発表させると、「自分の命は自分で守る」や、「実際の避難訓練の際、消防署の方や先生方から、まずは避難するように教わった」という意見が出た。訓練の成果が反映しているということが分かった。

視聴覚教材として、『学ぼうBOSA I シンサイミライ学校』(NHK for School)の第14回「きみならどうする？判断の分かれ道」を活用した。これは、和歌山県の小学校6年生が出演しており、この小学校は地震が起きたら津波被害に遭う可能性が高いので、いざというときどう行動するか真剣に考えさせるというものである。

「きみならどうする？判断の分かれ道」の番組では、「防災クロスロードゲーム」というゲーム形式で、子どもや保護者が話し合いを進めていたため、生徒にも視聴させながら、同じように考えさせた。

「クロスロード」とは「分かれ道」という意味であり、まさに「二者択一」の選択をし、周囲と意見を交換するという手法である。ここには正解はないが、いざというとき、自分で判断できる力を養うことが目的である。



自分の意思表示をする生徒

また、バズセッションのテーマとして、「学校からの帰り道、大きな地震が発生。学校に引き返しますか？家に帰りますか？」を実施したが、グループでのバズセッションでは、「きみならどうする？判断の分かれ道」のように、どちらを選んだかを、4人が一斉に意思表示をしてから、順番に根拠または理由を言うという形で進めていった。

ここでは、付せん紙に意見を書いて「田の字チャート」に貼りつける手法を活用し、討論を活性化させた。付せん紙は、コミュニケーションを活性化させるツールであり、手軽な教具である。この討議の後、班の代表者が意見発表を行った。



問題を解決する方法	問題点（悪いこと）	根拠・理由（よいこと）	
<p>川の水を汚す</p> <p>川の水を汚す</p> <p>川の水を汚す</p>	<p>学校に引き返す</p> <p>学校に引き返す</p> <p>学校に引き返す</p>	<p>学校に引き返す</p> <p>学校に引き返す</p> <p>学校に引き返す</p>	<p>学校に引き返す</p> <p>学校に引き返す</p> <p>学校に引き返す</p>
<p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p>	<p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p>	<p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p>	<p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p> <p>家に帰る</p>

テーマ「学校からの帰り道、大きな地震が発生。学校に引き返しますか？家に帰りますか？」

／組  
／班

## 総合的な学習の時間（国語科との合科）授業プラン

平成〇年〇月〇日（〇）〇校時  
授業者

- 1 学級 1年〇組 〇名 [1年〇組 教室]
- 2 テーマ 「話題をとらえて話し合おう バズセッションをする」  
(教科書154～158ページ)
- 3 ねらい
- ・話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。
  - ・事実と意見の関係に注意し、相手の反応を踏まえながら話す。

### 4 おおまかな流れ

	学習内容・活動	学習形態
0	絵本の読み聞かせをする。	一斉
1	授業の流れを確認する。	一斉
2	<b>共有の課題</b> 「二者択一」に取り組む。 (A「友だちをさがす」・B「まず避難する」のどちらかを選んで〇をつけ、選んだ理由を話し合う。)	一斉 ↓ ペア
3	「きみならどうする？判断の分かれ道」 (『学ぼうBOSA I』)を視聴して、いざというとき、自分で判断できる力をゲームを使って学ぶ。(メモを取る。)	一斉
4	<b>課題の追求①</b> テーマ「学校からの帰り道、大きな地震が発生。学校に引き返しますか？家に帰りますか？」について、自分の考えをまとめ、意見の根拠・理由と問題点等を整理する。	一斉 ↓ グループ
5	<b>課題の追求②</b> バズセッションをする。 (カード(付せん紙)を使ってみる。)	グループ
6	話し合いの結果を報告する。	グループ→一斉
7	<b>まとめ等</b> ワークシートに、まとめと授業の感想を記入する。	一斉

# 🧠 話題をとらえて話し合おう

ワークシート No. ②

## ビジネスセッションをする

**目標：**話題や議論の流れを的確にとらえて話し合おう

**目標：**事実と意見の関係に注意し、相手の反応を察まえながら話そう

● **個人** → **ペア** 「二者択一」に取り組みよう。(どちらか選んで○・選んだ理由)

学校で、屋休めに火災が発生。みんなで避難するとして、しかし、仲のいい友だちが異言ありません。

A 「友だちを助けよう」

B 「みんな避難する」

理由を

友達の  
意見

● **一人** 「おみなをいっちゃんに判断のかわれ道」(『おまをいっちゃん』) を視聴して、  
ご自身の考え、自分の判断をかわれ道カードを使って発表しよう。

× 正

テーマ 「学校からの帰り道、大きな地震が発生。学校に引き返しますか？家に帰りますか？」

● **個人** → **グループ** **課題①** 自分の考えをまとめ、意見の根拠と問題点を整理しよう。

【自分の意見】

しるべき

【根拠(意見のもとになる事実  
や体験) または理由】

かた

【自分の意見の問題点】

うごかうに問題がある

【問題を解決する方法】

うごかうに解決しよう

● **グループ** **課題②** ビスセッションしよう。(カード(せわし紙)を使ってしよう)

発言者

④・柏原さん

意見・根拠

④・生徒(夜寝るおび先生に帰ってしるべき)

・  
・  
・

・  
・  
・



グループ



一人

話し合いの結果を報告しよう。(自分の班は□班)

報告した班	報告内容のメモ			
班				
班				
班				
班				



個人

まとめ・授業の感想

参考

- 「意見」を言おう (『お伝えしよう』)
- 「しっかりと聞く」 (『お伝えしよう』)

自分の考えを整理しよう ~田の字チャート~  
▼番組の主人公・サトルくんの『田の字チャート』

ケンカをしないクラス いやな気持ちにならない きずつけ合わない	ケンカをするクラス 仲直りしたら、ケンカする前よりも、もっと仲よくなっていることがある
よいこと	悪いこと

「意見」を言うことは  
一歩前に踏み出すということ  
むらかみ たつお  
村上 龍男

話を聞く(聴く)ときのポイント  
~うめうめ~

- ① なずいて
- ② をみて
- ③ ストまで
- ④ っしょうけんぬい
- ⑤ マイルで

全話をぼちぼち見るためのポイント①  
~『お伝えしよう』の抜粋~



全話をぼちぼち見るためのポイント②  
~『お伝えしよう』の抜粋~

- 「全話のキャッチボール」 (『お伝えしよう』)



テーマ「学校からの帰り道、大きな地震が発生。」

学校に引き返しますか？家に帰りますか？

問題を解決する方法	問題点 (悪いこと)	根拠・理由 (よいこと)	
		<p>④ 夜遅くまで先生方が残っているから</p>	<p>学校に引き返す </p>
	<p>④ 家が倒壊しているかもしれない</p>		<p>家に帰る </p>

組 班 (メンバー )

## 2 道徳での実践

国語科における「話題をとらえて話し合おう、バズセッションをする」では、「道徳」との合科を考え、実践した。ここでは、2つの題材を扱った。一つは、けんかして友だちにあやまるという設定、もう一つは、犬の糞害についてである。どちらも“今”をテーマとしている。

糞害では、生徒に犬を飼っているか、飼ったことがあるかを尋ね、そして、犬を飼うとどんなことが大変かを問いかけた。生徒は口々に「エサ」、「ほえること」などと発言していたが、「散歩」という発言が出ると、「フン害にフンガイ！」という資料につなげていった。

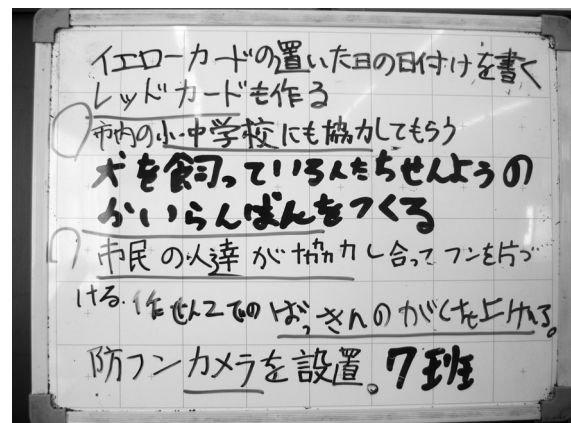


これは、NHK（Eテレ）で放送中の『道徳ドキュメント』第10回「フン害にフンガイ！」を活用したが、大阪府泉佐野市で実際に起こっている「犬の糞」をめぐる被害についてである。生徒にとっても身近な話題である。生徒と一緒に視聴しながら、話の展開に合わせて、黒板に「泉佐野市の対策」の写真や図表を貼りつけていった。この写真などは、

NHK for School の中にある『道徳ドキュメント』のWebページからダウンロードできる。また、生徒のワークシートには、言葉で表にしたものを、あらかじめ印刷しておいた。

視聴後、個人で、「糞害」をなくして、みんなが気持ちよく生活するにはどうしたらよいと思うかという設問について、ワークシートに自分の意見を書かせ、その後、バズセッションの時間に入った。

今回は、多様な意見が出ることを想定して、ホワイトボードに意見を書かせることにした。生徒は活発に討論をし、多くの意見が、ホワイトボードに書かれていった。「糞害」に困っている自治体に提案



できるほどのレベルの高いものが出てきた。最後に、今日の学習から、お互いが気持ちよく生活するためにはどうしたらよいか、考えさせたことをワークシートに記入させた。

そのほか、書評合戦（ビブリオバトル）も実践したが、こうした授業形態を日常的に行っていることで、高次の取り組みもスムーズである。

# 道徳(国語科) 授業プラン

平成○年○月○日(○) ○校時  
授業者

- 1 学級 1年○組 ○名 [1年○組 教室]
- 2 テーマ 「話題をとらえて話し合おう バズセッションをする」  
(教科書154~158ページ)
- 3 ねらい
- ・話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。
  - ・事実と意見の関係に注意し、相手の反応を踏まえながら話す。

## 4 おおまかな流れ

	学習内容・活動	学習形態
0	絵本の読み聞かせをする。	一斉
1	授業の流れを確認する。	一斉
2	<b>共有の課題</b> 「二者択一」に取り組む。 (二つの言葉のどちらかを選んで○をつけ、選んだ理由を話し合う。)	一斉 ↓ グループ
3	「どうしてそう思ったの？」(『お伝と伝じろう』)を視聴して、説得力のある理由とはどういうものかを考える。(メモを取る。)	一斉 (机は班の形)
4	<b>課題の追求①</b> テーマ「けんかをした友達にあやまりたい。メール、電話、手紙のどれがよいか。」について、自分の考えをまとめ、意見の根拠・理由と問題点等を整理する。	一斉 ↓ ペア
5	<b>課題の追求②</b> バズセッションをする。 (カード(付せん紙)を使ってみる。)	グループ
6	<b>まとめ等</b> ワークシートに、まとめと授業の感想を記入する。	一斉

# 話題をとらえて話し合おう バズセッションをする

**目標：**話題や議論の流れを的確にとらえて話し合おう

**目標：**事実と意見の関係に注意し、相手の反応を踏まえながら話そう

● **個人** → **グループ** 「二者択一」に取り組みよう。(どちらか選んだの・選んだ理由)

① 「犬」 「猫」	② 「給食」 「弁当」	③ 「部活」 「田舎」
理由を	理由を	理由を
×を	×を	×を

友達の意見

● **二者** 「どちらか選んだの。」(『理由を話そう』) を視聴し、説得力のある理由を聞いてみるのをやってみよう。

ポイント×を

**テーマ：**「けんかをした友達にもやまらう。メール、電話、手紙のどれがよいか。」


● **個人** → **ペア** **課題①** 自分の考えをまとめ、意見の根拠と問題点を整理しよう。

【自分の意見】 しるべきこと

【根拠(意見のよくなる事実や体験) または理由】 からだ	【自分の意見の問題点】 うしろ向きに問題がある	【問題を解決する方法】 うしろ向きに解決がある
---------------------------------	----------------------------	----------------------------

● **グループ** **課題②** バズセッションしよう。(カード(付せん紙)を使いよう)

<b>発言者</b> 例・田舎さん . . . .	<b>意見・根拠</b> 例・電話(自分の気持ちを言葉で伝えよう) . . .
--	---

●  **個人** まよめ・授業の感想


**参考**

-  「意見」を「話」に (『抱たい伝うん』)
- 「いつかの聞く」 (『抱たい伝うん』)

自分の考えを整理しよう ~田の字チャート~  
▼ 番組の主人公・サトルくんの『田の字チャート』

	ケンカをしないクラス	ケンカをするクラス
よいこと	いやな気持ちにならない きずつけ合わない	仲直りしたら、ケンカする前よりも、もっと仲よくなっていることがある
悪いこと	友だちのいやなところがあってもがまんしなさいけない 本当の気持ちと言えない	仲直りできないと悲しい 友だちともうまくつき合えない

「意見」を言うことは  
一歩前に踏み出すということ  
むらかみ たつお  
村上 龍男

- 「全話のキャッチボール」 (『抱たい伝うん』) 

話を聞く(聴く)ときのポイント  
~うめうめ~




- ㊟ なずいて
- ㊤ をみて
- ㊦ ストまで
- ㊨ っしょけんめい
- ㊩ マイルで

全話のキャッチボール (『抱たい伝うん』)

~うめうめ~  
話のキャッチボール

全話のキャッチボール (『抱たい伝うん』)

~うめうめ~  
話のキャッチボール

問題を解決する方法	問題点（悪いこと）	根拠・理由（よいこと）	
④ 「件名」を「しゅめんなまご」「しほめ（森）」			メール 
	④ 忙しいときに電話がかかると困る（田丸）		電話 
		④ 受け取った人がくり返し読める（北山）	手紙 

テーマ：「けんかをした友達にあやまりたい。メール、電話、手紙のどれがよいか。」

組 班

メンバー

## 道徳(国語科)授業プラン

平成〇年〇月〇日(〇)〇校時  
授業者

- 1 学級 1年〇組 〇名 [1年〇組 教室]
- 2 テーマ 「フン害にフンガイ！」(公德心 4-1)  
(「話題をとらえて話し合おう バズセッションをする」**国**教科書154P~158P)
- 3 ねらい 社会の一員として、ルールやマナーを守って生活しようとする気持ちをもつ。  
(・話題や議論の流れを的確にとらえて話し合う。)  
(・事実と意見の関係に注意し、相手の反応を踏まえながら話す。)

### 4 おおまかな流れ

	学習内容・活動	学習形態
0	絵本の読み聞かせをする。	一斉
1	授業の流れを確認する。	一斉
2	「フン害にフンガイ！」(『道徳ドキュメント』)を視聴して、フン害をなくすためにはどうしたらよいか考える。	一斉
3	<b>共有の課題</b> 「フン害」に対して、泉佐野市ではどのような対策をしてきたか整理する。	一斉
4	<b>課題の追求①</b> 「フン害」をなくしてみんなが気持ちよく生活するにはどうしたらよいと思うか、自分の意見をワークシートに書く。	一斉
5	<b>課題の追求②</b> バズセッションをする。(意見をホワイトボードに書く。付せん紙を使ってもよい。)	グループ
6	話し合いの結果を報告する。 (自分の班と比較しながらメモをとる。)	グループ→一斉
7	<b>まとめ等</b> お互いが気持ちよく生活するためにはどうしたらよいか、考えたことを書く。	一斉







グループ



一人

話し合いの結果を報告しよう。(自分の班は□班)

報告した班	報告内容のメモ			
班				
班				
班				



個人

今日の学習から、お互いが気持ちよく生活するために、お互いについて、考えたことを書いて。

Empty rounded rectangular box for personal reflection.

参考



「意見」を言うこと (『お伝え伝じること』) ● 「しつかり聞く」 (『お伝え伝じること』)

自分の考えを整理しよう ~田の字チャート~  
▼番組の主人公・サトルくんの『田の字チャート』

ケンカをしないクラス	ケンカをするクラス
よいこと	いやな気持ちにならない きずつけ合わない
悪いこと	仲直りしたら、ケンカする前よりも、もっと仲よくなっていることがある 仲直りできないと悲しい 友だちともうまくつき合えない

「意見」を言うことは  
一歩前に踏み出すということ  
おらかみ たつお  
村上 龍男

話を聞く(聴く)ときのポイント  
~うめうめ~

- ① なずいて
- ② をみて
- ③ ストまで
- ④ っしょうけんぬい
- ⑤ マイルで

全話をほめてやるためのポイント①  
~うめうめ~の挨拶~

全話をほめてやるためのポイント②  
~「うんうん」の挨拶~






「全話のキャッチボール」 (『お伝え伝じること』)

# やってみよう☆書評合戦(ビブリアバトル)

1年( )組( )番 氏名( )

ねらい:「人を通して本を知る. 本を通して人を知る」

- **一斉** じゆぎよう 授業の流ながれと、国語の時間こくごに学まなんだ「コミュニケーションスキル」を確かくにん認しよう。

	公式ルール	コミュニケーションスキル	
①	発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。		
②	<b>課題①</b> 順番に1人5分間で本を紹介する。 	スピーチ上手になるために スピーチの組み立て方 『はじめ』 『中』 『おわり』	話をしっかり聞く (聴く)ポイント ～うめうめ～ うなずいて めをみて ラストまで いっしょうけんめい スマイルで
③	<b>課題②</b> それぞれの発表のあとに、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分おこなう。	会話をはずませるためのポイント 「しりとりの方則」 「どうして?の方則」	
④	すべての発表が終了したあとに「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員1票でおこない、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。 		

- **グループ** はっぴよう 発表・ディスカッションのときにメモを取り、すべての発表が終おわつたら、「最も読みたくなった本」を一つだけ選んで○をつけよう。

紹介者	本のタイトル	紹介された本の面白そうなところ (2つ)		最も読みたくなった本
◎サトル君	ハリー・ポッター	ふしぎな呪文を唱えるところ	ほうぎに乗って空を飛ぶところ	○

- **個人** かんそう 授業の感想きにゆうを記入しよう。

## (参考) ビブリオバトルとは

ビブリオバトルは、誰でも（小学生から大人まで）開催できる本の紹介コミュニケーションゲームです。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーに日本全国に広がっています！

小中高校、大学、一般企業の研修・勉強会、図書館、書店、サークル、カフェ、家族の団欒などで広く活用されています！

### 【公式ルール】

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

たったこれだけのルールで、遊べば読書がスポーツに変わる！本を読むのが楽しくなる！いろんな本に巡り会えて、どんどん世界が広がる！

また、紹介の際にはシンプルに本とカウントダウンタイマーだけ。あとは、ライブで、アドリブで、本について語ります。レジュメは準備せず、パワーポイントなども利用せず、生の語りで紹介しましょう～！

そんなビブリオバトルを楽しみませんか。ぜひ皆さんも、友人と、同僚と、仲間達と一緒にビブリオバトルを開いて遊んでみましょう！

(引用) 知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイトより

<http://www.bibliobattle.jp/home>

# 授業に使えるツール

(ユニバーサルデザイン, アクティブ・ラーニング用)

\* そのまま印刷できるようにしています。



## 1 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた教具の工夫

「支援を要する生徒」にも分かりやすいもの、そして誰にでも分かりやすい教材・教具などを工夫して作成することで、授業が大きく変わってくる。

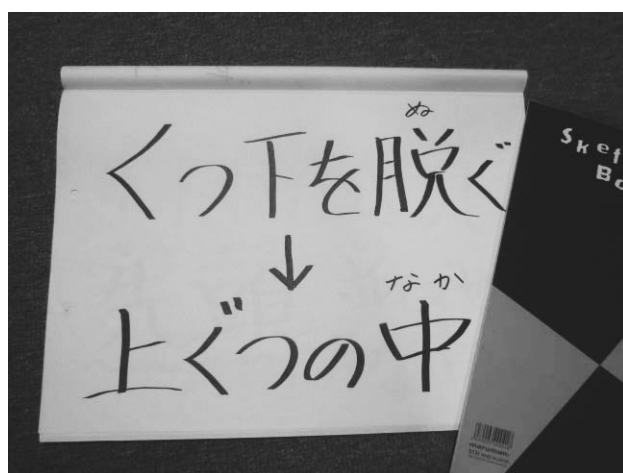
ここでは、「学習形態カード」・「指示カード」等を紹介する。A4の原寸大で提示しておく。



「学習形態カード」(左)と「指示カード」(右)

こうした表示は、パソコンがあれば簡単に作れるが、なかなか教材作成の時間が作れない。年度当初に作っておけば、いつでも使えるし、継続的な使用が可能となる。

今回の実践での副産物は、こうした表示の有効性を見られたことである。身体計測で、右図のように、スケッチブックに、これからの対応を記載することで、生徒はスムーズに計測台に乗ってくれた。これまでは、声を張りあげることが多かったが、工夫一つで変わってくるのである。

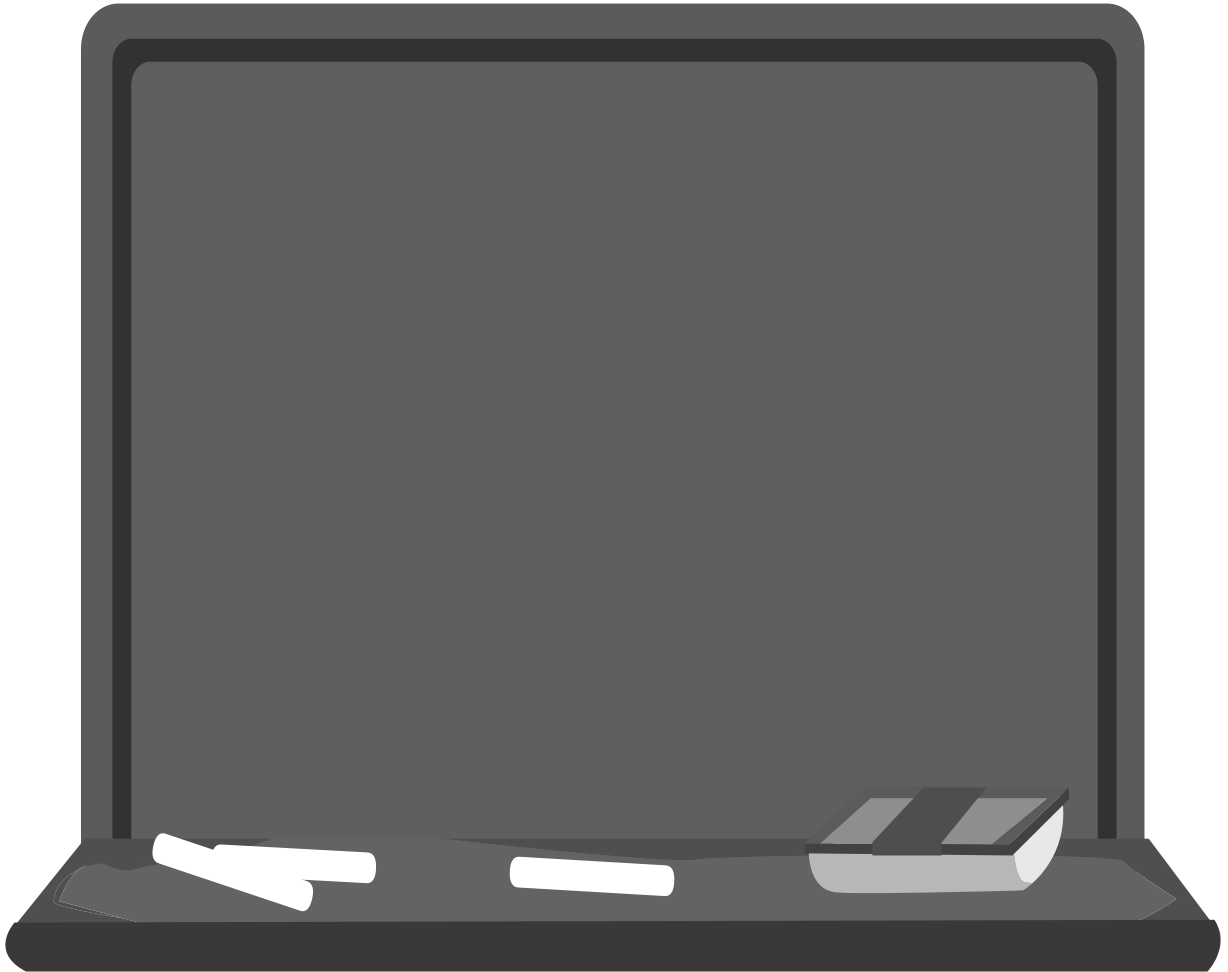


### 【参考引用文献】

東京都日野市公立小中学校全教師・教育委員会 with 小貫悟(2010)『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍



一 齊





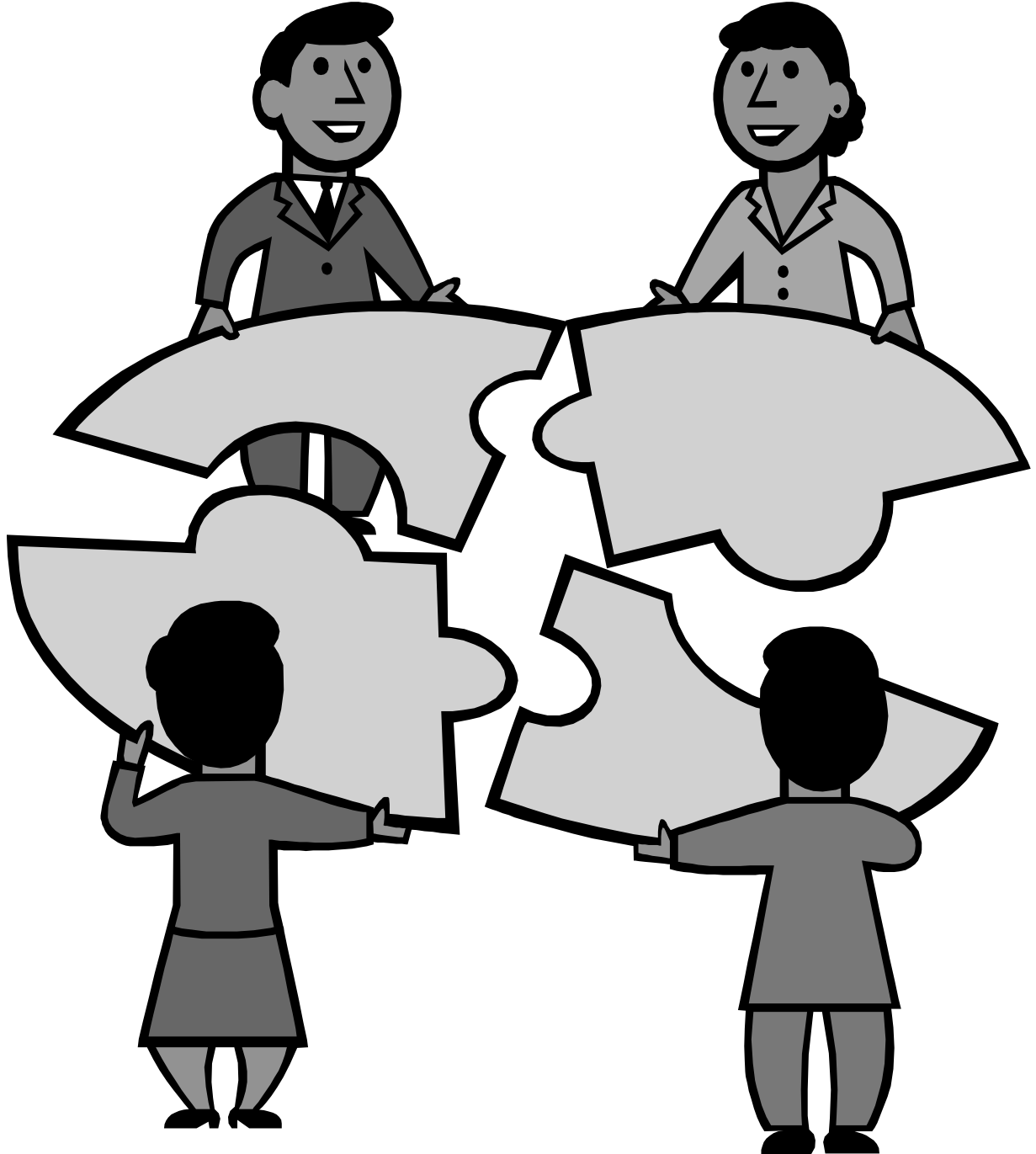
一 齊



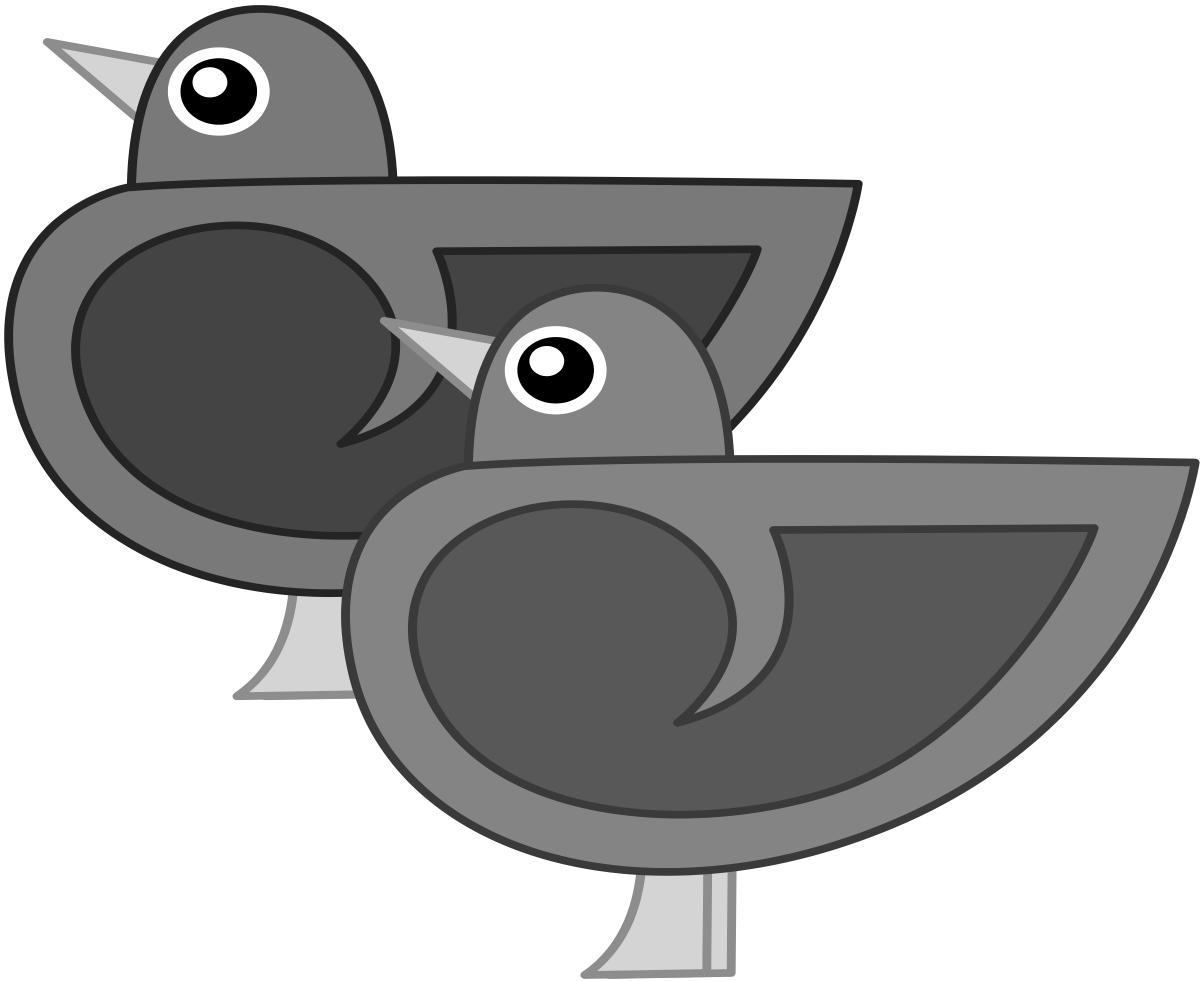
# グループ



# グループ



ペア



個人



目標

授業の流れ

課  
目  
題

課  
目  
題

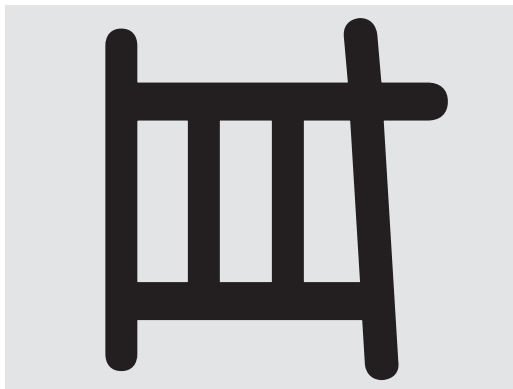
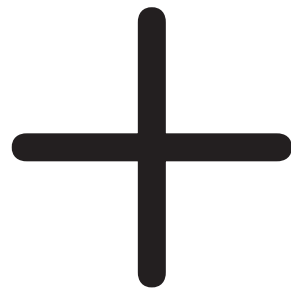
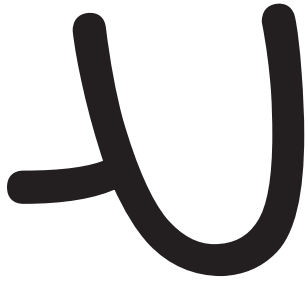
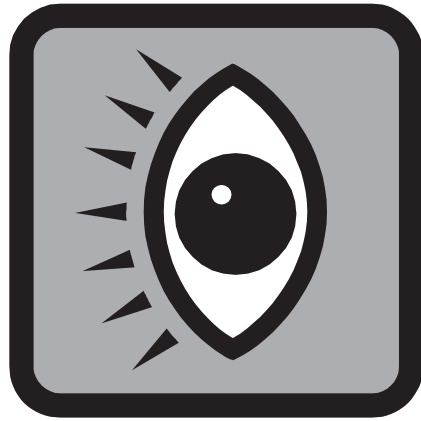
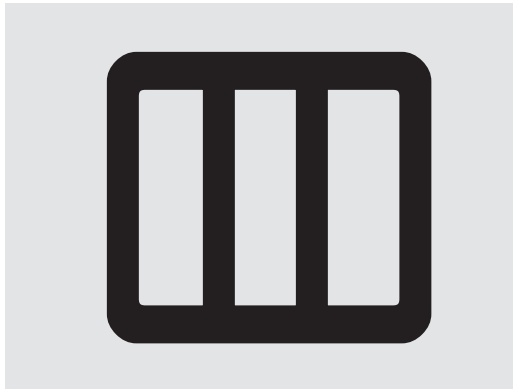
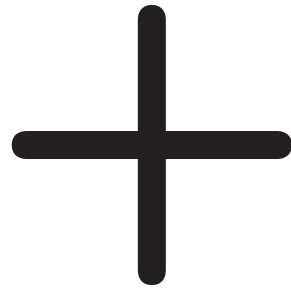
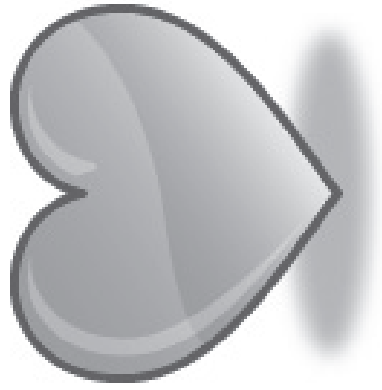
ね  
ら  
い

ま  
と  
め



∨

扣 担 心 耳



# 話をしっかり聞く（聴く）

ポイント

～うめrais～

㊦ はずいて

㊧ をみて

㊨ ストまで

㊩ っしょうけんめい

㊪ マイルで



## 後記

### 1 アクティブ・ラーニングへの転換に向けて

これからの教育において、主体的な学びの保証は、必然の流れであろう。そのために、「協同学習」の取り組みは、全国各地で実践されている。例えば、「学びの共同体」「学び合い」などが挙げられる。また、「問題発見解決型学習（Problem-Based Learning）」の手法を取り入れている学校もある。いずれにおいても、まだまだ緒についたものであり、試行錯誤の連続といえよう。

そうした学習形態において、「話す、聞く、伝える」という本質的なスキルを身につけていないと、前に進まないのが現状であろう。こうしたスキルは、幼児期からの生育歴が大きく影響する。また、地域などの大人とのかかわりも重要であろう。

学校教育においても、こうしたスキルをどこでつけるかという課題もあり、国語科や特別活動、さらに総合的な学習の時間などで指導しているものの、能力差や経験値が壁となっている。

本冊子で取り上げた柏原教諭の実践は、国語科を切り口に考えたものであるが、それは、国語科にそれに関連した単元があり、こうしたスキルの獲得は、国語科の学習指導要領でも規定されているからである。

そうであるならば、特設の授業（多くの学校では、新規の課題を特設で対応）を組まずに、工夫改善によって、通常の授業内で指導できるのではないだろうか。また、その指導にあたっては、能力差も考え、ユニバーサルデザインを活用し、誰でも身につけえられる環境を整備すれば、能力差も解消できるだろう。

このように、授業改善は、教師と子ども双方にメリットがないと続かないのである。

ここで紹介した数々のデザインやフレームを活用して、今後のアクティブ・ラーニング等の指導に活かしていただきたい。

# アクティブ・ラーニング資料（中央教育審議会資料から）

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（諮問） 参考資料， 文部科学省 平成 26 年 11 月 20 日

## （参考）初等中等教育におけるアクティブ・ラーニングの取組例

### 言語活動の充実

#### 国語科における取組例

身近な昔話とそのルーツとなった古典、関連する資料等を読み、内容や面白さについてまとめ、グループで紹介。また、他のグループで紹介。また、自分が取り上げた古典と比較して、分かったことや考えたことなどを文章で表現する。

（写真下）昔話のルーツについてグループで発表する様子



#### 理科における取組例

空気でっぼうのしくみについて、実験を通じて玉が飛び出す様子を確認し、自分の考えを図に整理。それを、教師がタブレットPCで撮影し、いくつかの案を電子黒板に映して共有。学級全体の考えを分類し、自分の考えと比較していく。

（写真左）考え方の違いを比較・検討する様子



### ペア学習・グループ学習等の推進

ある課題を解決するために、複数の視点を設定し、分担して担当し、それぞれが作成した説明を話し合いにより統合することで答えを導き出す。さらに、各グループの答えと根拠をクラス全体で発表し合い、より深い理解へとつなげていく。（ジグソー法の例）



### ICTの活用

タブレットPC、電子黒板などのICTを効果的に活用することにより、より分かりやすい授業が実現するとともに、個別学習や協働学習を通じて、子供たちの主体的な学びが可能となる。

（写真左）自分の考えを発表し、話し合う様子



（写真右）環境学習の一環としての「エコ工作」

### 外部人材の活用等による学校・家庭・地域との連携

土曜日を活用し、地域住民・保護者等のボランティアや民間企業等からのゲストティーチャーの協力の下、多様な学習・体験活動等の機会を提供。



52

## 2 評価はどうあるべきか

総合学習やアクティブ・ラーニングにおいて、評価が難しいという意見が多く聞かれる。そこで、「パフォーマンス評価」を活用することをお勧めしたい。これは、リアルな文脈の中で、様々な知識やスキルについて評価することを目途として行われるものである。

ここでは、評価テストといった従来の評価に加え、**パフォーマンス課題** (performance task) を設定し、評価基準である**ルーブリック (rubric)**に基づいて評価を行う。この評価法は、Wiggins, McTighe の理論に基づいたものである。これは、子どもが実際に特定の活動を行い、それを評価者が観察し、学力が表現されているかどうかを評価するものであり、これまで見えにくい学力とされてきた思考力や判断力、表現力などの評価に適しているとされている。

(西岡. 2003) 具体的には、自由記述、レポート、作品、実技、朗読、演技、実験操作、口頭発表など様々な方法が用いられているため、こうした授業には、最適だといえるだろう。

下表は、パフォーマンス評価の評価基準 (ルーブリック) 例である。

表 評価基準表例

評価	ルーブリック (評価基準)
A	〇〇の役割や意義を理解し、〇〇を意欲的に取り組んだ。特に、〇〇について、収集した情報を活用し、積極的に〇〇した。今後、〇〇に対して積極的に関わっていこうと前向きに考えることができた。
B	〇〇の役割や意義を理解し、〇〇を意欲的に取り組んだ。特に、〇〇について、収集した情報を活用し、積極的に〇〇した。しかし、〇〇が分からず、〇〇でも、〇〇ができなかったという課題があった。ただ、これからの〇〇に対して積極的に関わっていこうと前向きに考えることができた。
C	〇〇の役割や意義を理解し、〇〇に対して、まじめに取り組んだ。しかし、〇〇についてしっかり考えることができず、〇〇もやや消極的だった。ただ、これからの〇〇に対して積極的に関わっていこうと考えるようになった。
D	〇〇の役割や意義があまり理解できず、〇〇が消極的だった。特に、どのようにしたらいいのか、あまり理解出来なかったため、〇〇という課題が残った。これからの〇〇に対して積極的に関わっていこうという意識がやや薄いように思われる。

【参考引用文献】西岡加名恵：教科と総合に活かすポートフォリオ評価法 新たな評価基準の創出に向けて，図書文化社，2003

コミュニケーション活動を活かした授業づくり  
—「話すこと，聞くこと」の指導にどう取り組めばよいか—

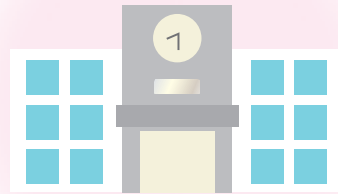
平成27年3月18日

鳴門教育大学教職大学院

院 生（教諭） 柏原知子

指導教員（教授） 阪根健二

「国語科」だけでなく、他教科や  
総合的な学習、学級活動、道徳にも使える  
言語活動のヒント満載！



国立大学法人

鳴門教育大学  
Naruto University of Education

阪根研究室